**[原著]** 松本歯学 17:172~181, 1991

key words: 冠 一 経年的装着頻度 一 統計

# 平成元年における冠・架工義歯に関する統計的観察 その1 単独冠について

柳田史城, 小坂 茂, 土屋総一郎, 若松正憲 岩崎精彦, 岩井啓三, 甘利光治

松本歯科大学 歯科補綴学第2講座(主任 甘利光治 教授)

中根 卓

松本歯科大学 口腔衛生学講座 (主任 近藤 武 教授)

A Statistical Observation of Crown and Bridge in 1989 Part 1 Crown

Fumishiro YANAGIDA, Sigeru KOSAKA, Sohichiro TSUCHIYA, Masanori WAKAMATSU, Kiyohiko IWASAKI, Keizo IWAI and Mitsuharu AMARI

Department of Prosthodontics II, Matsumoto Dental College (Chief: Prof. M. Amari)

#### SUGURU NAKANE

Department of Community Dentistry, Matsumoto Dental College (Chief: Prof. T. Kondoh)

#### Summary

In 1989 study was made of 839 Crowns which had been fabricated for patients at the Prosthodontic Clinic of Matsumoto Dental College.

Some of results were as follows;

- 1) 44.5 % of the patients were male and 55.5 % were female.
- 2) 91.7 % of the patients were between 20 and 69 years old.
- 3) There were more crowns of the upper abutment teeth than of the lower abutment teeth.
- 4) 73.8 % of the crowns were fabricated for nonvital teeth.
- 5) 39.2 % of the crowns were fabricated as full cast crowns; 28.2 % as facing crowns, (22.4%) as porcelain fused to metal crowns, 5.4% as resin facing crowns); 11.6% as jacket crowns, (11.6%) as resin jacket crowns and 0.1% as porcelain jacket crowns); 20.3% as partial coverage crowns and 0.7% as dowel crowns.

# 緒 言

各種補綴物の統計的調査によって、補綴学の推 移、材料や技術の進歩、および社会情勢や地域性 などが推測でき、さらには将来の展望に対し、多 くの示唆が得られる。

こうしたことから、私達の講座でも、松本歯科大学病院補綴診療科における冠・架工義歯補綴物について、昭和47年から一連の経年的調査を行ない、報告1-9)してきた。

そこで今回は、平成元年1月(昭和64年1月を含む、以下の文中では略)から同年12月までの1ヶ年間について、松本歯科大学病院補綴診療科で作製、装着された単独冠を中心に調査し、併せて昭和63年の調査報告<sup>9)</sup>と比較、検討したので報告する。

#### 調査方法と項目

松本歯科大学病院、補綴診療科における平成元年1月から同年12月までの1ヶ年間の外来患者479名、および作製、装着された単独冠839個について、病院歯科診療録、補綴科プロトコール、材料センター材料支給伝票等を資料とし、マイクロコンピューター(Macintosh plus、Apple 社製)を用いて、収集データを分類集計後、以下の各項目について調査した。

# A. 患者総数と地域別患者数

単独冠および架工義歯を装着した患者の住所を

塩尻市内,これを除く長野県内および長野県外と に区別し、その数を調査した。

## B. 性別および年齢階級別患者数

患者の年齢を20歳未満,20歳代,30歳代,40歳代,50歳代,60歳代,70歳代および80歳以上の8階級に分け調査した。

## C. 単独冠および架工義歯の装着数

装着物を単独冠および架工義歯に分け、その総 数を調べた。

# D. 単独冠について

#### 1. 年齢階級別装着頻度

患者の年齢を前記B項に準じて区分し,各年齢 階級別の装着頻度を調べた。

# 2. 性別装着頻度

# 3. 部位別装着頻度

表1:地域別患者数

-tile	44		患	者 数
地	蚁		平成元年	昭和63年
尻	市	内	185	152
			(38.6)	(37.1)
野	県	内	286	245
、塩	尻 市	内)	(59.7)	(59.8)
野	県	外	8	13
			(1.7)	(3.2)
i	†		479	410
		ŀ	(100.0)	(100.0)
	野塩野	尻 市 野 県 、塩尻市	尻 市 内 野 県 内 、塩尻市内) 野 県 外	地 域 平成元年

( ) %

平元:平成元年

昭63:昭和63年

表2:性別および年齢階級別患者数

								_											
年調査性	齢階級 在	20	歳未満	2	0歳代	3	30歳代		10歳代	5	0歳代	6	0歳代	7	0歳代	80:	歳以上		計 
男	平元	(	13 2.7)	(	41 8.6)	(	31 6.5)	(	42 8.8)	(	39 8.1)	(	39 8.1)	(	8 1.7)			(	213 44.5)
	昭63	(	6 1.5)	(	29 7.1)	(	45 11.0)	(	41 10.0)	(	39 9.5)	(	31 7.6)	(	5 1.0)			(	196 47.8)
女	平元	(	14 2.9)	(	50 10.4)	(	60 12.5)	(	75 15.7)	(	38 7.9)	(	24 5.0)	(	4 0.8)	(	1 0.2)	(	266 55.5)
	昭63	(	14 3.4)	(	43 10.5)	(	37 9.0)	(	47 11.5)	(	41 10.0)	(	30 7.3)	(	2 0.5)			(	214 52.2)
- <b></b>	平元	(	27 5.6)	(	91 19.0)	(	91 19.0)	(	117 24.4)	(	77 16.1)	(	63 13.2)	(	12 2.5)	(	1 0.2)	(	479 100.0)
п1	昭63	(	20 4.9)	(	72 17.6)	(	82 20.0)	(	88 21.5)	(	80 19.5)	(	61 14.9)	(	7 1.7)			(	410 100.0)

( )%

平元:平成元年 昭63:昭和63年

装着部位を上,下顎および前歯部,小臼歯部, 大臼歯部の各歯群に分け調査するとともに,年齢 階級別装着頻度との関係を調査した.

## 4. 支台歯の生・失活歯別装着頻度

支台歯を生・失活歯別に分類して装着頻度を調査するとともに,年齢階級別および部位別装着頻度との関係を調査した.

## 5. 種類別装着頻度

支台装置の種類を全部鋳造冠,一部被覆冠,前 装冠(既製陶歯前装冠,陶材溶着鋳造冠,レジン 前装冠の3種),ジャケット冠(陶材およびレジン ジャケット冠の2種)およびアタッチドタイプの ポストクラウン(以下継続歯と略す)に分類して, それらの装着頻度を調査するとともに,年齢階級 別,性別および部位別装着頻度との関係を調べた。 6. 支台築造体について

支台築造体をキャストコアー, レジンコアー, アマルガムコアー, セメントコアーに分類して, その築造頻度を調べると同時に, 築造部位および 単独冠の種類別築造頻度との関係を調査した.

## 調査成績

## A. 患者総数と地域別患者数

表1に示すように、単独冠および架工義歯を装着した患者総数は479名であった。その構成について地域別に見ると、塩尻市内を除く長野県内の患者が286名(59.7%)で過半数を占め、次いで塩尻市内在住者が185名(38.6%)で、長野県外在住者

				-3	<b>₹3</b> . ₽	P 255	述の平	1115	省級別を	σ,	ていいか	<i>L ]</i>	可安有级					
調査年年齢階級	部位		3+3		54 45	_8-	6 6-8		8+8		3+3	•	54 45	8-	-6 68		8+8	8+8 8+8
20歳未満	平元	(	17 2.0)	(	12 1.4)	(	3 0.4)	(	32 3.8)	_		(	2 0.2)	(	6 0.7)	(	8 1.0) (	40 4.8)
	昭63	(	$^{4}_{0.6}$			(	8 1.1)	(	$\frac{12}{1.7}$					(	$\frac{12}{1.7}$	(	12 1.7) (	24 3.3)
20歳代	平元	(	51 6.1)	(	31 3.7)	(	39 4.6)	(	121 14.4)	(	7 0.8)	(	18 2.1)	(	53 6.3)	(	78 9.3) (	199 23.7)
	昭63	(	$\frac{13}{1.8}$	(	$\frac{17}{2.3}$	(	37 5.1)	(	67 9.2)			(	8 1.1)	(	37 5.1)	(	45 6.2) (	112 15.4)
30歳代	平元	(	41 4.9)	(	21 2.5)	(	27 3.2)	(	89 10.6)	(		(	30 3.6)	(	41 4.9)	(	76 9.1) (	165 19.7)
	昭63	(	41 5.7)		29 4.0)	(	41 5.7)	(	-		6 0.8)		19 2.6)	(	36 5.0)	(	61 8.4) (	172 23.7)
40歳代	平元	(	33 3.9)		23 2.7)	(	30 3.6)	(		(		(	26 3.1)	(	32 3.8)	(	70 8.3) (	156 18.6)
	昭63	(	28 3.9)	(	20 2.8)	(	28 3.9)	(	76 10.5)	(	0.3)	(	23 3.2)	(	6.1)	(	9.5) (	145 20.0)
50歳代	平元	(	27 3.2)	(	18 2.1)	(	25 3.0)	(	70 8.3)		20 2.4)	(	26 3.1)	(	17 2.0)	(	63 7.5) (	133 15.9)
	昭63	(	39 5.4)		20 2.8)	(	24 3.3)	(	83 11.4)			-	29 4.0)	(	18 2.5)	(	7.7) (	139 19.2)
60歳代	平元	(	41 4.9)		19 2.3)	(	1.7)	(	74 8.8)				16 1.9)	(	14 1.7)	(	6.1) (	125 14.9)
	昭63	(	28 3.9)	(	10 1.4)	(	3.0)	(	8.3)	(		(	26 3.6)	(	17 2.3)	(	8.3) (	120 16.6)
70歳代	平元	(	0.8)	-	0.1)	(	0.1)	(	9 1.1)	(	4 0.5)	(	4 0.5)	(	2 0.2)	(	10 1.2) (	19 2.3)
	昭63	(	5 0.7)	(	0.1	(	0.1)	(	7 1.0)			(		(	4 0.6)	(	6 0.8) (	13 1.8)
80歳以上	平元 昭63											(	2 0.2)			(	2 0.2) (	2 0.2)
	平元	_	217	_	125	_	139		481	_	69	_	124	_	165	_		839
計	昭63	(	25.9) 158		14.9) 97	(	161		57.3) 416		8.2) 34 4.7)		107	(	168	(	309	725
	*EUJ	(	21.8)	(	13.4)		22.2)	(	57.4)	(	4.7)	(	14.8)	(	23.2)		42.6) (	100.0)

表3:単独冠の年齢階級別および部位別装着数

( ) % 平元:平成元年 昭63:昭和63年 は8名(1.7%)であった。

#### B、性別および年齢階級別患者数

表 2 に示すように、性別では、男性が213名 (44.5%)、女性が266名 (55.5%) と、女性が過半数を占めていた。また、年齢別では20歳代から60歳代までで全体の91.7%を占めていた。

#### C. 単独冠および架工義歯の装着数

平成元年1ヶ年間における単独冠の装着数は 839個, 架工義歯は203装置であった。

#### D. 単独冠について

#### 1. 年齢階級別装着頻度

表 3 に示すように、最も多かったのは20歳代 (199個, 23.7%)で、以下30歳代(165個, 19.7%)、 40歳代(156個, 18.6%)と続き、20歳代から60歳 代までで全体の92.7%を占めていた。

#### 2. 性別装着頻度

表 4 に示すように、女性に装着された単独冠は 509個(60.7%) と過半数を占めていた。

## 3. 部位別装着頻度

25.9%) が最も多く,以下大臼歯部 (139個, 16.6%),小臼歯部 (125個, 14.9%)の順となり,下顎では大臼歯部(165個, 19.7%),小臼歯部(124個, 14.8%),前歯部 (69個, 8.2%)の順であった。この中で,最も装着頻度の高かったのは,上顎前歯部で,最も少なかったのは下顎前歯部であった。

また,年齢階級別との関係をみると,顎別では, 60歳代までのすべての年代において上顎の装着数 が下顎のそれを上回っていた。

# 4. 支台歯の生・失活歯別装着頻度

表5,6は生・失活歯の判明しているものの中で、単独冠支台歯の生・失活歯別装着頻度と年齢階級別および部位別との関係をそれぞれ表したものである。全体では、失活歯が601歯(73.8%)、生活歯が213歯(26.2%)であった。年齢別階級との関係では、すべての年代で、失活歯が生活歯を上回っていた。また、部位別でも、すべての部位において失活歯が生活歯を上回っていた。

#### 5. 種類別装着頻度

表7,表4および表8は,支台装置の種類別装 着頻度と年齢階級別,性別および部位別装着頻度 との関係を、それぞれ表したものである。

全体では全部鋳造冠が329個(39.2%)でもっとも多く,次いで前装冠236個(28.1%),一部被覆冠170個(20.3%),ジャケット冠98個(11.7%),の順であった。さらに前装冠においては,陶材溶着鋳造冠が188個(22.4%),レジン前装冠は45個(5.4%)で,既製陶歯前装冠が3個(0.4%)を数えた。ジャケット冠については、レジンジャケット冠が97個(11.6%)でポーセレンジャケット冠

表4:単独冠の種類別および性別装着数

12.7.平纸池	・ノモス	× /.	7745 24 6	<i>-</i>	ENT SCA	1 %	λ,
種 類	別		男		女		計
全部鋳造冠	平元	(	142 16.9)	(	187 22.3)	(	329 39.2)
	昭63	(	178 24.6)	(	173 23.9)	(	351 48.4)
前装冠	平元	(	81 9.7)	(	155 18.5)	(	236 28.1)
	昭63	(	66 9.1)	(	66 9.1)	(	132 18.2)
既製陶歯前装冠	平元			(	3 0.4)	(	3 0.4)
	昭63						
レジン前装冠	平元	(	25 3.0)	(	20 2.4)	(	45 5.4)
	昭63	(	$\frac{14}{1.9}$	(	$\frac{13}{1.8}$	(	27 3.7)
陶材溶着前装冠	平元	(	56 6.7)	(	132 15.7)	(	188 22.4)
	昭63	(	$\frac{52}{7.2}$	(	53 7.3)	(	$105 \\ 14.5)$
ジャケット冠	平元	(	41 4.9)	(	57 6.8)	(	98 11.7)
	昭63	(	$\frac{35}{4.8}$	(	$\frac{38}{5.2}$	(	$\begin{array}{c} 73 \\ 10.1) \end{array}$
レジン ジャケット冠	平元	(	41 4.9)	(	.56 6.7)	(	97 11.6)
	昭63	(	35 4.8)	(	$\frac{36}{5.0}$	(	71 9.8)
ポーセレン ジャケット冠	平元			(	1 0.1)	(	1 0.1)
	昭63			(	0.3)	(	0.3)
継続歯	平元	(	0.2)	(	4 0.5)	(	6 0.7)
	昭63	ζ	0.1)	(	0.1)	(	0.3)
一部被覆冠	平元	(	64 7.6)	(	106 12.6)	(	170 20.3)
	昭63	(	50 7.9)	(	117 16.1)	(	167 23.0)
計	平元	(	330 39.3)	(	509 60.7)	(	839 100.0)
n i	昭63	(	330 37.8)	(	$\substack{395 \\ 62.2)}$	(	725 100.0)
		_				_	

( ) % 平元:平成元年 昭63:昭和63年 はわずかに1個(0.1%)であった。

年齢階級別では、30歳代以後は全部鋳造冠が最も頻度が高かった。また、前装冠については、各年代において、陶材溶着鋳造冠がレジン前装冠を上回っていた。

部位別との関係(表8)をみると,上顎前歯部では,陶材溶着鋳造冠が118個(14.1%),レジンジャケット 冠68個(8.1%),レジン前 装冠20個(2.4%)の順であった。また下顎前歯部においては,陶材溶着鋳造冠26個(3.1%),レジンジャケット冠27個(3.2%),レジン前装冠12個(1.4%)であった。次に小臼歯部をみると上,下顎とも全部鋳造冠が最も多く、次いで一部被覆冠,前装冠の

順であった。大臼歯部についても同じであった。 6. 支台築造体について

表 9,10は支台築造体の種類別築造頻度について部位別および単独冠の種類別頻度との関係を示したものである。

全体では、キャストコアーが516個 (96.4%) で 最も多く、以下レジンコアー、セメントコアーの 順で、アマルガムコアーは施されていなかった。

また、部位別(表9)および単独冠の種類別(表10) 築造頻度との関係でみても、キャストコアーが全てにおいて、大半を占めていた。

表5:単独冠支台歯の生・失活歯別および年齢階級別装着数

年前	年	207	袁未満	2	20歳代	3	80歳代	4	10歳代		50歳代	(	60歳代	7	0歳代	80			· 計
生活歯	平元	(	12 1.5)	(	77 9.5)	(	33 4.1)	(	24 2.9)	(	31 3.8)	(	34 4.2)		2 0.2)			(	213 26.2)
	昭63	(	20 2.8)	(	58 8.0)	(	43 5.9)	(	34 4.7)	(	24 3.3)	(	20 2.8)					(	199 27.4)
失活歯	平元	(	28 3.4)	(	119 14.6)	(	125 15.4)	(	122 15.0)	(	97 11.9)	(	91 11.2)	(	17 2.1)	(	2 0.2)	(	601 73.8)
	昭63	(	4 0.6)	(	54 7.4)	(	129 17.8)	(	111 15.3)	(	115 15.9)	(	100 13.4)	(	13 1.8)			(	526 72.6)
計	平元	(	40 4.9)	(	196 24.1)	(	158 19.4)	(	146 17.9)	(	128 15.7)	(	125 15.4)	(	19 2.3)	(	2 0.2)	(	814 100.0)
	昭63	(	24 3.3)	(	112 15.4)	(	172 23.7)	(	145 20.0)	(	139 19.2)	(	120 16.6)	(	13 1.8)			(	725 100.0)

( ) % 平元:平成元年

昭63:昭和63年

表 6 : 単独冠支台歯の生・失活歯別および部位別装着数

生活歯 平元 24 (2.9) (4.5) (5.0) (12.5) (1.1) (5.0) (7.5) (13.6)   昭63 19 (3.4) (9.0) (14.3) (1.7) (2.6) (8.8) (13.1)   失活歯 平元 186 (22.9) (10.7) (11.4) (45.0) (7.2) (9.7) (11.9) (28.9)   昭63 4 (2.9) (10.7) (11.4) (45.0) (7.2) (9.7) (11.9) (28.9)   昭63 4 (0.6) (7.4) (17.8) (15.3) (15.9) (13.4) (1.8)	213 ( 26.2)
失活歯 平元 (1.9) (3.4) (9.0) (14.3) (1.7) (2.6) (8.8) (13.1) 平元 (22.9) (10.7) (11.4) (45.0) (7.2) (9.7) (11.9) (28.9) [8263] 4 54 129 111 115 100 13	( 20.2)
$\begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	199 ( 27.4)
	601 ( 73.8)
	526 ( 72.6)
平元 210 124 134 468 68 120 158 346 (25.8) (15.2) (16.5) (57.5) (8.4) (14.7) (19.4) (42.5)	814 ( 100.0)
图 53 ( 158 97 161 416 34 107 168 309 ( 21.8) ( 13.4) ( 22.2) ( 57.4) ( 4.7) ( 14.8) ( 23.2) ( 42.6)	725 ( 100.0)

( ) % 平元:平成元年

昭63:昭和63年

# 考 蔡

今回の報告は、平成元年1月から同年12月までの1ヶ年間に松本歯科大学病院補綴診療科を訪れた外来患者に作製、装着された単独冠について、患者総数と地域別患者数、性別と年齢別患者数などを含む4項目について調査したものである。以下、今回の調査成績を総括するとともに、昭和63年の調査報告がと比較した。

# A. 患者総数と地域別患者数について

患者総数は479名で、昭和63年の報告<sup>9)</sup>と比較して、69名(16.8%)の増加がみられた。構成率については、塩尻市内、塩尻市を除く長野県、同県外ともに1%内外の変化にとどまった。患者数の増加は、ここ数年の病院診療態勢の改善と、大学病院補綴診療科としての特殊性によるものと考えられる。

B. 性別および年齢階級別患者数について

表7:単独冠の種類別および年齢階級別装着数

	年代			_	• + 447	- 12	- EAR			1 124	四百权办	1 20	一					
調査年	1	20)	歳未満	2	20歳代	3	30歳代	4	10歳代	Ę	50歳代	6	0歳代	7	70歳代	80歳以上		計
種類				. 5		_	1				<u> </u>		·					- 2
全部鋳造冠	平元	(	11 1.3)	(	53 6.3)	(	80 9.5)	(	78 9.3)	(	57 6.8)	1	40 4.8)	1	8 1.0)	( 0.2)	,	329 39.2)
	昭63		2		34		86		81		75		65	•	8	( 0.2)		351
عد بين أب		(	0.3)	(	4.7)	(	11.9)	(	11.2)	(	10.3)	(	9.0)	(	1.1)		(	48.4)
前装冠	平元	(	12 1.4)	(	74 8.8)	(	44 5.2)	(	32 3.8)	(	33 3.9)	į	38 4.5)	(	3 0.4)		(	236 28.1)
	昭63	,	3	,	14	,	40	,	22	,	31	,	19	,	3		,	132
既製陶歯前装冠	平元	(	0.4)	(	1.9)	(	5.5)	(	3.0)	(	4.3)	(	2.6)	(	0.4)		(	18.2) 3
<b>死我們面們</b> 我 <b>但</b>										(	3 0.4)						(	0.4)
	昭63																	
レジン前装冠	平元		2		3 0.4)		7		13		8		12					45
	1171.00	(	0.2)	(	0.4)	(	0.8)	(	1.5)	(	1.0)	(	1.4)				(	5.4)
	昭63	(	$\frac{2}{0.3}$			(	8 1.1)	(	$\frac{4}{0.6}$	(	6 0.8)	(	$\frac{7}{1.0}$				(	27 3.7)
陶材溶着鋳造冠	平元	,	10	,	71	,	37	,	19	,	22	,	26	,	3		,	188
	昭63	(	1.2) 1	(	8.5) 14	(	4.4) 32	(	2.3) 18	(	2.6)		3.1) 12	(	0.4) 3		(	22.4) 105
		(	0.1)	(	1.9)	(	4.4)	(	(2.5)	(	$\frac{25}{3.4}$	(	1.7)	(	0.4)		(	14.5)
ジャケット冠	平元	,	6 0.7)	(	2 0,2)	(	12 1.4)	(	18 2.1)	(	24 2.9)	1	29 3.5)	(	7 0.8)		(	98 11.7)
	昭63	ì	1	`	6	•	13	`	10	`	17	•	24		2		`	73
		(	0.1)	(	0.8)	(	1.8)	(	1.4)	(	2.3)	(	3.3)	(	0.3)		(	10.1)
レジン ジャケット冠	平元	(	6 0.7)	(	2 0.2)	(	12 1.4)	(	18 2.1)	(	23 2.7)	(	29 3.5)	(	7 0.8)		(	97 11.6)
	昭63	,	1	,	6	,	13	į	8	,	17	•	24	į	2		•	71
ポーセレン	平元	(	0.1)	(	0.8)	(	1.8)	(	1.1)	(	2.3)	(	3.3)	(	0.3)		(	9.8) 1
ジャケット冠	` "									(	0.1)						(	0.1)
	昭63							(	$\frac{2}{0.3}$								(	$\frac{2}{0.3}$
継続歯	平元				1			(	2		1		1		1			6
				(	1 0.1)			(	0.2)	(	0.1)	(	0.1)	(	0.1)		(	0.7)
	昭63							(	$\frac{2}{0.3}$								(	$\frac{2}{0.3}$
一部被覆冠	平元	,	11	,	69	,	29	•	26	,	18	,	17				`	170
	昭63	(	1.3) 18	(	8.2) 58	(	3.5) 33	(	3.1) 30	(	2.1) 16	(	2.0)				(	20.3) 167
	H⊒03	(	$\frac{18}{2.5}$	(	8.0)	(	4.6)	(	4.1)	(	2.2)	(	$\frac{12}{1.7}$				(	
	平元	,	40		199	,	165	,	156		133	_	125	_	19	, 2	,	839
<b>#</b>	昭63	(	4.8)	(	23.7) 112	(	19.7) 172	(	18.6)	(	15.9)	(	14.9)	(	2.3)	( 0.2)	(	100.0)
	P⊒03	(		(		(		(	$\frac{145}{20.0}$	(	139 19.2)	(	120 16.6)	(	13 1.8)		(	725 100.0)
								_						_		( ) %		

( ) % 平元:平成元年

昭63:昭和63年

男女比については、構成率で女性が男性を上回っており、これは他の報告<sup>2-9,11,141</sup>と同様であった。これは、女性のほうが男性よりも、比較的通院する時間が得やすい環境にあるためと思われれる

年齢階級別患者数をみると、40歳代では29名 (35.4%) の増加がみられた。これは、昭和58年 にピークであった30歳代が約10年推移したことも一因と考えられる。

# C.単独冠について

単独冠装着総数において114個(15.7%)の増加 がみられたが、これは患者数の増加と歩を一にし たものと考える。

性別装着頻度では、性別患者数の成績と同様に 女性のほうが高かった。これは、性別齲蝕罹患率<sup>16)</sup> と一致している。

部位別装着頻度において, 顎別では上顎が下顎 を上回り, 歯群別では上顎前歯部が最も多く, 下

表8:単独冠の種類別および部位別装着数

表 8 : 単独社の種類別および部位別装着数 部位 調査年 3+3 54 45 8-6 6-8 8+8 3+3 54 45 8-6 6-8 8+8 8+8 8+8 8+8 8+8 8+8 8+8 8+8 8+8 8																			
調査年	部位	_	- <del></del>		54145	8-	-616-8		я <u>—</u> —	-	3+3	-	54145	8-	-616-8	-	8 + 8	_{	——— 3 <u>+ 8</u>
種類			<u> </u>		<del></del>		010 0	_	<u>0   0</u>		0   0	•	OF   FO	Ů	0,0 0				3+8 
全部鋳造冠	平元			(	59 7.0)	(	92 11.0)	(	151 18.0)			(	75 8.9)	(	103 12.3)	(	178 21.2)	(	329 39.2)
	昭63	(	0.1)	(	8.3	(	103 14.2)	(	$\frac{164}{22.6}$			(	77 10.6)	(	$110 \\ 15.2)$	(	187 25.8)	(	351 48.4)
前装冠	平元	(	140 16.7)	(	30 3.6)	(	6 0.7)	(	176 21.0)	(	38 4.5)	(	15 1.8)	(	7 0.8)	(	60 7.2)	(	236 28.1)
	昭63	(	95 13.1)	(	$\frac{15}{2.1}$	(	$_{0.2)}^{2}$	(	$\frac{112}{22.5}$	(	10 0.8)	(	$^{6}_{1.2)}$	(	$^{4}_{0.4)}$	(	$\frac{20}{2.5}$	(	$\frac{132}{24.9}$
既製陶歯前装冠	平元	(	2 0.2)	(	1 0.1)			(	3 0.4)									(	3 0.4)
	昭63																		
レジン前装冠	平元	(	20 2.4)	(	7 0.8)	(	1 0.1)	(	28 3.3)	(	12 1.4)	(	5 0.6)			(	17 2.0)	(	45 5.4)
	昭63	(	$\frac{15}{2.1}$	(	$\frac{5}{0.7}$			(	$\frac{20}{2.8}$	(	7 1.0)					(	7 1.0)	(	$\frac{27}{3.7}$
陶材溶着鋳造冠	平元	(	118 14.1)	(	22 2.6)	(	5 0.6)	(	145 17.3)	(	26 3.1)	(	10 1.2)	(	7 0.8)	(	43 5.1)	(	188 22.4)
	昭63	(	$80 \\ 11.0)$	(	$\frac{10}{1.4}$	(	$\frac{2}{0.3}$	(	$\frac{92}{12.7}$	(	$\frac{3}{0.4}$	(	$^{6}_{0.8)}$	(	$\frac{4}{0.6}$	(	13 1.8)	(	105 14.5)
ジャケット冠	平元	(	68 8.1)	(	1 0.1)			(	69 8.2)	(	28 3.3)	(	1 0.1)			(	29 3.5)	(	98 11.7)
	昭63	(	57 7.6)					(	57 7.6)	(	$\frac{16}{2.2}$					(	$\frac{16}{2.2}$	(	73 9.8)
レジン ジャケット冠	平元	(	68 8.1)	(	1 0.1)			(	69 8.2)	(	27 3.2)	(	1 0.1)			(	28 3.3)	(	97 11.6)
	昭63	(	$\frac{55}{7.9}$					(	57 7.9)	(	$\frac{16}{2.2}$					(	$\frac{16}{2.2}$	(	$71 \\ 10.1)$
ポーセレン ジャケット冠	平元									(	1 0.1)					(	1 0.1)	(	0.1)
	昭63	(	$\frac{2}{0.3}$					(	$\frac{2}{0.3}$									(	$\frac{2}{0.3}$
継続歯	平元	(	2 0.2)	(	1 0.1)	(	2 0.2)	(	5 0.6)	(	1 0.1)					(	1 0.1)	(	6 0.7)
	昭63	(	0.1)					(	0.1)		_	(	0.1)			(	1 0.1)	(	0.3)
一部被覆冠	平元	(	7 0.8)	(	34 4.1)	(	39 4.6)	(	80 9.5)	(	2 0.2)	(	33 3.9)		55 6.6)	(	90 10.7)	(	170 20.3)
	昭63	(	0.6)	(	$\frac{22}{3.0}$	(	56 7.7)	(	82 11.3)	(	8 1.1)	(	23 3.2)	(	54 7.4)	(	85 11.7)	(	167 23.0)
āt	平元	(	217 25.9)	(	125 14.9)	(	139 16.6)	(	481 57.3)	(	69 8.2)	(	124 14.8)	(	165 19.7)	(	358 42.7)	(	839 100.0)
вí	昭63	(	158 21.8)	(	97 13.4)	(	161 22.2)	(	416 57.4)	(	$\frac{34}{4.7}$	(	107 14.8)	(	168 23.2)	(	309 42.6)	(	725 100.0)
												_				7	\ 0/	_	

( ) % 平元:平成元年

昭63:昭和63年

顎前歯部が最も少なかった。これもまた齲蝕罹患率<sup>16</sup>と同じ傾向である。

支台歯の生・失活歯別装着頻度では、失活歯支

台のものが全体の70%以上を占めた。これは他の報告1~9,12,13,15)とも同様の傾向であり、歯内療法の発達および歯牙保存の考え方の浸透による影響が

表9:単独冠支台築造体の種類別および部位別築浩数

部位 調査年 <u>3+3 54 45 8-6 6-8</u> 種類	<u>8+8</u> 3+3 54 45 8-6 6-8 8+8 8+8
キャスト マ元 ( 169 76 74 ( 31.6) ( 14.2) ( 13.8)	319 45 66 86 197 516 ( 59.6) ( 8.4) ( 12.3) ( 16.1) ( 36.8) ( 96.4)
昭63 122 64 76 (25.4) (13.3) (15.8)	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
アマルガムコアー	
昭63 ( 3.6)	$( \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
ョアー 平元 ( 0.7) ( 0.6) ( 0.6)	(1.9) (0.4) (0.2) (0.2) (0.7) (2.6)
$\left  \begin{array}{c} \Box 63 \\ \Box 0.8 \end{array} \right  \left( \begin{array}{c} 4 \\ 0.8 \end{array} \right) \left( \begin{array}{c} 2 \\ 0.4 \end{array} \right) \left( \begin{array}{c} 8 \\ 1.7 \end{array} \right)$	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
	$( \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
昭63 ( 0.8)	$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
平元 174 80 78 ( 32.5) ( 15.0) ( 14.6)	332 48 67 88 203 535 ( 62.0) ( 9.0) ( 12.5) ( 16.4) ( 37.9) ( 100.0)
<sub>EZ263</sub>   126 66 91	283 18 80 99 197 480 ( 59.0) ( 3.8) ( 16.7) ( 20.6) ( 41.0) ( 100.0)

( ) % 平元:平成元年 昭63:昭和63年

表10:単独冠支台築造体の種類別および単独冠の種類別築造数

支付 調査 査 歯歯類	楽造類 の種類		全部鋳造冠	前装冠	既 製 物 接 短		レ ジ 前 装 冠	陶 材鋳 浴造冠	ジャケット冠	レジン ジャケット 冠	ポーセレン ジャケット 冠	継続歯	-	一部被覆冠	<del></del>
キャストコアー	平元 昭63	(	252 47.1)( 285 59.4)(	188 35.1) 107 22.3)		(	34 6.4)( 21 4.4)(	154 28.8)( 86 17.9)(	75 14.0)( 54 11.3)(	75 14.0) 52 10.8)(	2 0.4)		(	1 0.2)( 3 0.6)(	449
アマルガム コアー	平元 昭63	(	4 0.8)												4 0.8)
レジン コアー	平元 昭63	(	7 1.3)( 16 3.3)(	5 0.9) 6 1.3)		(	1 0.2)( 4 0.8)(	4 0.7) 2 0.4)					(	2 0.4)(	14 2.6) 22 4.6)
セメント コアー	平元 昭63	(	1 0.2) 4 0.8)	-				(	1 0.2)(	1 0.2)			(	3 0.6)( 1 0.2)(	5 0.9) 5 1.0)
<b>#</b>	平元 昭63	(	260 48.6)( 309 63.9)(	193 36.1) 113 34.0)		(	35 6.5)( 25 11.1)(	158 29.5)( 88 23.0)(	76 14.2)( 54 11.3)(	76 14.2) 52 10.8)(	2 0.4)		(	4	535 100.0) 480 100.0)

( ) % 平元:平成元年 昭63:昭和63年 大きいと思われる.

種類別装着頻度では、構成率からみると63年度の報告<sup>90</sup>と同様に全部鋳造冠が最も多く、また、一部被覆冠においては増加傾向を示し、経年的推移をみても同様の傾向を示した。これは残存歯質に対する配慮と患者の審美性に対する要求の高まりが、こうした成績になったものと考えられる。

支台築造体では、昭和63までの報告1-9)と同様にキャストコアーが最も高い使用頻度を示した。これは松本歯科大学病院が教育機関としての性格をもっている以上、支台築造法の基本であるキャストコアーの頻度が高いのは容易に理解できるところである。

## 結 論

松本歯科大学病院補綴診療科に平成元年1月から同年12月までの1ヶ年間に来院した患者および作製,装着された単独冠を中心にその頻度調査を行ない、以下の結果を得た。

- 1. 患者総数は479名で,地域別患者構成率では,昭和63年と比べて,特に大きな変化は,みられなかった。
- 2. 性別患者構成率では、女性が55.5%を占めた。また、年齢階級別構成率では、20歳代から60歳代までが全体の91.7%を占めた。
- 3. 単独冠および架工義歯の装着数は、それぞれ839個と203装置であった。
  - 4. 単独冠について
- イ)年齢階級別装着頻度では,20歳代が最も多く,20歳代から60歳代までが全体の92.7%を占めた
- ロ) 部位別装着頻度では,上顎が下顎を上回り, 歯群別では上顎前歯部が最も多く,下顎前歯部が 最も少なかった。
- ハ)支台装置の種類別装着頻度では、全部鋳造 冠が39.2%と最も多く、次いで前装冠、一部被覆 冠の順であった。
- =) 支台歯の生・失活歯別装着頻度では,失活 歯が73.8%を占めた。
- ホ)支台築造体では、キャストコアーが96.4% を占めた。
- 5. 昭和63年の報告と比較すると, 患者数で69 名(16.8%)多く,単独冠の装着数は114個(15.7%) の増加がみられた。

その他の項目については、特に大きな傾向の変化は認められなかった。

## 文 献

- 1)長田 淳,三沢京子,戸祭正英,伊藤晴久,岩崎 精彦,石原善和,大野 稔,小山 敏,高橋久美 子,押川卓一郎,甘利光治(1985)昭和49年にお ける冠・架工義歯に関する統計的観察。松本歯学, 11:70~83.
- 2) 伊藤晴久, 竹内利之, 戸祭正英, 長田 淳, 三沢京子, 岩崎精彦, 石原善和, 乙黒明彦, 片岡 滋, 高橋喜博, 甘利光治(1985)昭和52年における冠・架工義歯に関する統計的観察. 松本歯学, 11:84~102.
- 3) 平野龍紀, 杉本久美子, 戸祭正英, 石原善和, 伊藤晴久, 岩崎精彦, 乙馬明彦, 大野 稔, 片岡 滋, 大溝隆史, 甘利光治 (1985) 昭和55年における冠・架工義歯に関する統計的観察. 松本歯学, 11:222~244.
- 4) 杉本久美子,長田 淳,石原善和,伊藤晴久,岩 崎精彦,三沢京子,小山 敏,高橋喜博,岩根健 二,宮崎晴郎,甘利光治(1985)昭和58年におけ る冠・架工義歯に関する統計的観察。松本歯学, 11:245~269.
- 5) 大野 稔,岩井啓三,石原善和,乙黒明彦,片岡 滋,岩根健二,戸祭正英,甘利光治,中根 卓, 太田紀雄(1986)昭和59年における冠・架工義歯 に関する統計的観察 その1,単独冠について 松本歯学,12:355~365.
- 6) 大溝隆史, 竹下義仁, 岩井啓三, 石原善和, 片岡 滋, 高橋喜博, 大島俊昭, 稲生衡樹, 伊藤晴久, 乙黒明彦, 三沢京子, 岩根健二, 甘利光治, 中根 卓(1988) 昭和60年における冠・架工義歯に関 する統計的観察 その1, 単独冠について 松本 歯学, 14:218~227.
- 7) 竹下義仁, 大溝隆史, 岩井啓三, 石原善和, 片岡 滋, 大島俊昭, 稲生衡樹, 小林賢一, 甘利光治, 中根 卓 (1988) 昭和61年における冠・架工義歯 に関する統計的観察 その1, 単独冠について 松本歯学, 14:306~315.
- 8) 稲生衡樹, 森岡芳樹, 片岡 滋, 宮崎晴郎, 大島 俊昭, 小林賢一, 岩井啓三, 石原善和, 甘利光治, 中根 卓 (1989) 昭和62年における冠・架工義歯 に関する統計的観察 その1, 単独冠について 松本歯学, 15:288~296.
- 9) 小林賢一,清水くるみ,岩井啓三,岩崎精彦,片岡 滋,高橋喜博,森岡芳樹,栂尾正弘,甘利光治,中根 卓(1990)昭和63年における冠・架工義歯に関する統計的観察 その1,単独冠について 松本歯学,16:58~67.
- 10) 長野県総務部情報統計課編(1990)平成元年長野

県統計書. 長野県統計協会. 長野県.

- 11) 河原邑安,谷口 勉,藤本正之,森 勝利,藤田茂信,今上茂樹,山本萬里子,村山茂樹(1977)大阪歯科大学臨床歯科学研究所付属診療所における最近5年間における補綴物の統計的観察 その1,各種補綴物の装着頻度について。歯科医学,40:916~922。
- 12) 小森富夫, 甘利光治, 阪本義典, 久保一慶, 里見 雅輝, 藤多文雄, 沢村直明, 小沢 寛, 田中昌博, 斎藤高子 (1980) 昭和53年における冠・架工義歯 補綴に関する統計的観察 その1,単独補綴歯冠. 歯科医学, 43:268~276.
- 13) 川添尭彬, 大塚 潔, 山下秀介, 村田洋一, 井田

- 治彦,山下錦之助,末瀬一彦,坂井田藤芳(1985) 昭和58年における統計的観察 その1,単独補綴 歯冠. 歯科医学,48:691~698。
- 14) 中嶋 武, 小林琢三, 山田芳夫, 吉田 忠(1977) 各種補綴物の10年間の統計(I). 岩医大歯誌, 2: 22~28.
- 15) 天野秀雄, 沼倉則正, 高橋美好, 秋山修, 榎本功, 荻野悦志, 小沢英世, 田端義雄, 柳田正浩, 山中大和, 前田睦夫 (1977) 冠, 架工義歯の統計的観察. 城西大紀要, 6:247~254.
- 16) 厚生省健康政策局歯科衛生課編(1990) 昭和63年 歯科疾患実態調査報告. 口腔保健協会, 東京,